

三番瀬評価委員会小委員会（自然環境調査関係）懇談会の開催結果（概要）

- 1 開催日時 平成19年10月23日（火）午後6時から8時10分
- 2 場 所 千葉県国際総合水泳場会議室
- 3 出席者 委員2名
- 4 参加人数 7名
- 5 配付資料 資料1 第1回三番瀬評価委員会小委員会（自然環境調査関係）の開催結果（概要）
資料2 三番瀬自然環境調査について
資料3 三番瀬自然環境調査年次計画（案）
参考資料1 第9回三番瀬漁場再生検討委員会資料3
参考資料2 行徳可動堰の運転実績について
参考資料3 東京湾河口干潟保全再生検討報告書（抜粋）

6 結果概要

（1）会議の位置づけについて

本会議は、三番瀬評価委員会小委員会（自然環境調査関係）として開催予定であったが、出席委員が少ないため「懇談会」として開催することとした。

（2）懇談内容

ア 議題1「平成18年度三番瀬自然環境調査事業の評価について」

事務局から、資料2に基づき、平成18年度調査の評価に関し、県が考える以下の4項目の評価ポイントと前回の小委員会における主な意見についての説明があった。

底質調査結果

底生生物調査（平均個体数）

底生生物調査（湿重量）

底生生物調査（群集組成の類似度）

望月委員まとめ

この評価ポイントについて、各委員からの意見及び会場からの意見を踏まえ、取りまとめ責任者の望月委員が以下のとおりとりまとめた。

- ・「底質調査結果」については、流況の変化等との関係、あるいはシルト・粘土分の動態の検討などが必要である。
- ・「底生生物調査（平均個体数）」及び「底生生物調査（湿重量）」については、環境に関する諸データとの関係の検討（特に種毎の詳細な分析）、台風やアオサの異常発生との関係の検討などが必要である。またカキ礁についての取扱いの検討の必要性の指摘もあった。
- ・「底生生物調査（群集組成の類似度）」については、猫実川の水環境との関係についてさらに検討が必要である。

なお、これら以外の重要な変化に関する指摘はなかった。

また、三番瀬全体の環境の変化については、以下のとおりまとめられた。

- ・現在の調査結果及び結果の解析状況からは、三番瀬の自然環境に何らかの大きな変化があったのか、観察された変動が過去の変動の範囲内なのかどうかの判断を下すことはできない。
- ・今後、利用可能な全てのデータを用いた分析を進めることが必要であり、さらに平成19年度以降の調査結果とあわせた解析（最終的には22年度の総合解析）で重要な変動であるかの最終結論を出すことになるであろう。

イ 議題2「平成20年度以降の調査の進め方について」

事務局から、資料2及び資料3に基づき、平成20年度以降の調査の進め方についての説明があった。

望月委員まとめ

この案について、各委員からの意見及び会場からの意見を踏まえ、取りまとめ責任者の望月委員が以下のとおりとりまとめた。

- ・三番瀬自然環境調査については、平成20年度も引き続き「三番瀬自然環境調査年次計画（案）」（資料3）にしたがって実施すること。
なお、各調査の設計やとりまとめにおいては、これまでの評価委員会、小委員会における検討などを活かしていくものとする。
- ・重要種・主要種についての種ごとの分析や底質の変化の分析などを行うこと。
また、生物とその生息環境の変化について、相互の関連性や変化の要因の検討を行うこと。また、他機関が実施した調査等を収集・整理し、検討を加えること。

ウ 今後のスケジュールについて

小委員会のとりまとめ等に関する今後のスケジュールについて、事務局から説明があった。

以上